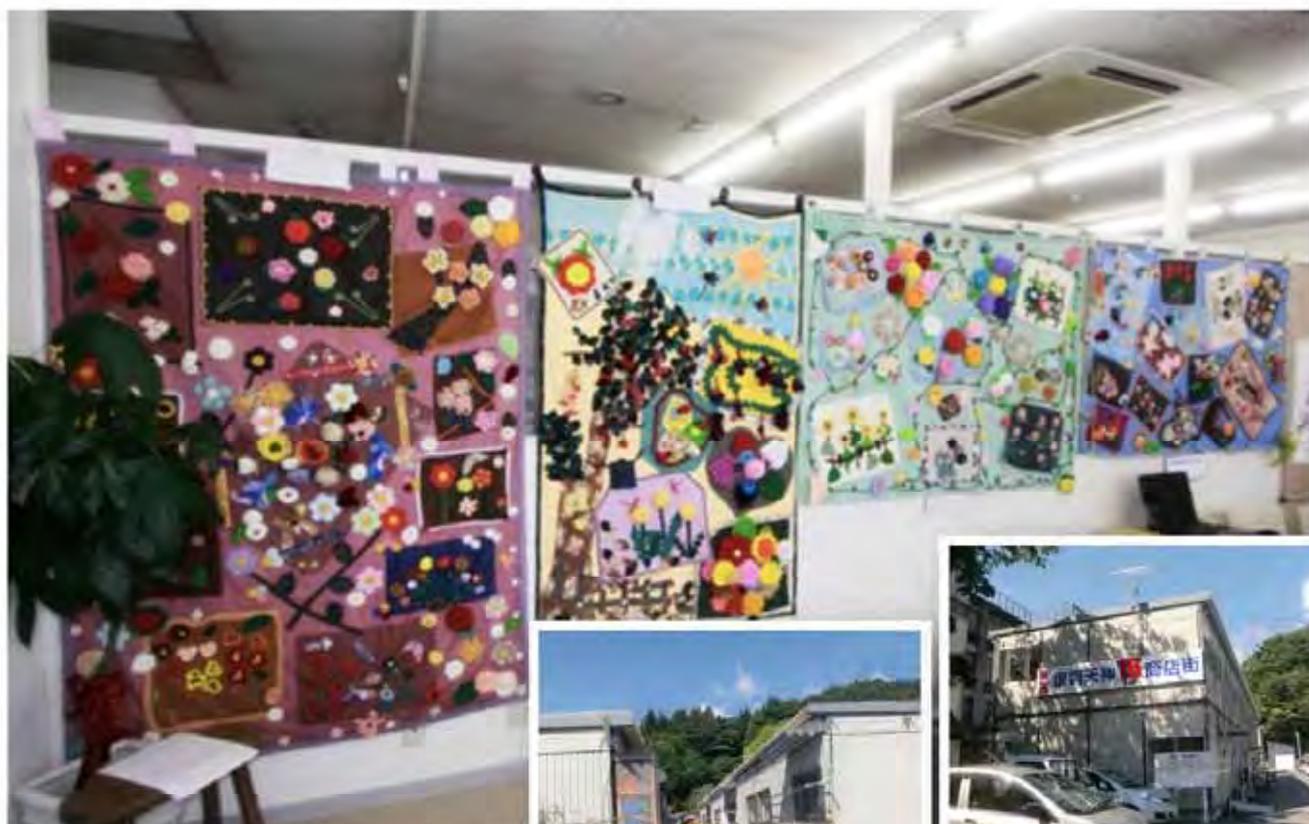


岩手県釜石市仮設住宅のみなさまが 共同制作された パッチワークキルト展

2013. 3. 16 ~ 23

日本福祉文化学会関西ブロック主催



日本福祉文化学会会長尾玲子が、平成24年3月から岩手県釜石市の仮設住宅にある「お茶っこサロン」に月1回程度来訪し、仮設住宅に住む中高年の女性を中心とした方々に対して、パッチワークキルトの制作指導のボランティアを行っています。このたび、一辺100cm以上のパッチワークキルトの共同作品が完成し、昨年末から釜石近隣での作品展示を経て関西で巡回展が行われております。

釜石で仮設住宅の方々が初めて作られた作品は、

「春のヨーヨーキルト」でした。

ワークショップでは、ヨーヨーキルトの作り方をご紹介します。



パッチワークキルト制作 4つの仮設住宅談話室で活動

岩手県釜石市では、カリタスジャパン釜石ベースという災害支援団体が活動しており、私は、2012年3月から毎月、釜石ベースのパッチワークキルト教室を担当しています。現在は4ヶ所の談話室に伺っています。

釜石でパッチワークキルトの共同作品が制作されるに至った経緯は、次のとおりです。

釜石ベースでボランティア活動をした京都府宮津市にある京都暁星高校の生徒さんたちが、仮設住宅の談話室を訪問し、そこで女性たちが熱心に手芸をされている姿に感銘を受け、2012年6月に高校の文化祭でそれらの手芸作品の展示会をされました。そして、文化祭で募られた寄付金が、手芸材料のためにと釜石ベースに届けられました。その寄付を大切に活用しようと、釜石ベースのスタッフの企画で、パッチワークキルト教室が開かれている3ヶ所および、自主的な手芸サークルを行っている1ヶ所の計4ヶ所で、パッチワークキルトの共同作品を制作していただくことが提案され、着手することになりました。

テーマは『お庭』ということで、朝、昼、夕、夜、それぞれグリーン、クリーム、ピンク、ブルーの土台布が用意されました。

談話室のみなさまが一生懸命に作られたブロックやパーツを持ち寄って、お互いに相談し合っ配置や飾り付けを進められました。そして、制作をされた4ヶ所すべての談話室から、見事な力作の共同制作が生み出されました。

材料としては、布だけでなく、お花や果物の形に編まれたアクリルたわしや、折り紙の作品、カゴ作り用の紙のテープなども使われています。

(長尾玲子)



被災地の現状

「震災から2年が過ぎてなお、被災地では次々に新しい状況が生まれてきています。肉体的、精神的、経済的に余裕のある人は、仮設住宅からアパートや改修した家へと引っ越していきます。その結果、仮設住宅に残っていくのは多くの場合、様々な理由で自立していくことのできない人々となります。2014年度をめどに、復興住宅へと移っていく計画が立てられ、2013年度から順次引っ越しが始まる予定ですが、仮設住宅に住む多くの人はせっかくできてきた仮設のコミュニティが無くなり、また一から復興住宅で新たなコミュニティを作らなければならないことにうんざりしています。

多くの支援団体が2012年度いっぱい引き上げることを決めています。仮設住宅で自宅にこもってしまっている人と社会との接点がますます少なくならないか心配です。特に男性や体の弱い方はお茶っこサロンに出でこられず、孤立することが度々あります。子どもたちの中には、様々な環境の変化からストレスをためてしまい、体と心のバランスを崩してしまっている子がいます。」

(カリタスジャパン東日本震災活動報告書2013年3月から抜粋)